

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名	ものづくりワークショップ -デジタル展のフシギ空間設計-
実施日	平成 28年 6月 11日(土) ~ 平成 28年 9月 22日(木)
実施場所	(制作場所) 工学部 AI 棟おもしろラボ
企画代表者の氏名, 所属	氏名: 橘高 允伸 所属: 工学部第二類システム工学課程 4年次
構成員の氏名	尾倉侑也、岸下優介、川嶋克明、江藤慎太郎、関塚良太、戸塚正明、水口翔太、萩山直紀、木下直樹、市原和也
指導的立場の教員氏名	栗田雄一 准教授 (生体システム論研究室)
企画の目的及び内容	<p>本企画のメンバーである橘高、尾倉が所属する学生団体 HSC (Hiroshima Student Community) では 9月 19日、22日に東広島市福富町にあった道の駅で、デジタルコンテンツの体験型イベントを開催しました。道の駅のイベントにおいて、コンテンツの体験ブース作りは非常に重要であり、ブースづくりの出来不出来によりイベントのクオリティは大きく変わると考えています。そこで、ワークショップ形式のイベントを複数回行いながら、ブースを作ることでブースのクオリティ向上を目指すのが本企画の目的です。</p> <p>なお、本企画運営は道の駅イベントの主催である HSC に加えて、生体システム論研究室の学生にも協力して頂く^{*1} ことで、工学部の学生と他の学部や他大学の学生^{*2} との交流が生まれることが期待できます。また、道の駅で開催されるイベントにおいて、主催の HSC 以外の学生も協力していることはイベントとして大きな価値があることだと考えます。</p> <p>※1 HSC メンバーの橘高、尾倉が生体システム論研究室所属の関係より協力していただくことになりました。</p> <p>※2 HSC は、広島大学の学生のみならず広島県内の学生で構成されています。</p>
来場者数	30名程度 (広島大学工学部・教育学部・総合科学部、広島工業大学の学生が参加)
主催・後援団体 (外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模)	道の駅 湖畔の里 福富 デジタルコンテンツ体験イベント 主催: HSC (Hiroshima Student Community)
活動の内容 (準備, 広報活動, 当日の様子等)	<p>イベント当日までに体験ブースのフシギな空間を作り上げるためにどんなものを作成するか、どのような光の演出があれば暗い中でも安全にコンテンツ体験可能かなど、様々なことを思考錯誤しながら、多くの学生と協力しながらブース作りを行うことができました。(以下、制作物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トゥインクルキューブ 会場の上に釣り糸を通して、光るロープウェイを作成しました。また、ライトの光はロープウェイの下でスマホを振ったりすることで、自在に操ることができます。 ・バンブーハウス 木材で作った土台の上に竹で作ったドームを乗せて、布を貼って、そのドームにプロジェクションマッピングを行いました。 ・プロジェクター、パソコン隠すためのお化け型カバー プロジェクターやパソコン等を隠してしまった方が会場の雰囲気をつしぎに出来ると考えたので、プロジェクターなどの機器が見えないようにお化け型のカバーを作成しました。また、お化け型以外にも中からパソコンなどの光が綺麗に透けて見えるような提灯型のカバーなども作成しました。 <p>以上が大きな制作物ですが、他にも会場内でフシギで楽しい体験を演出するために、スタンブラリーなど様々なものを作成しました。</p>

(裏面に続く)

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

行っておりません。

成果・課題

[成果]

・デジタル展のブース作り

ブース作りでは、暗い空間を光でフシギな空間に演出することができました。プロジェクターやパソコンをできるだけ見えないような工夫など細部までこだわり、学生全員で協力して考え、ブース作りを行いました。

来て頂いた方によりフシギな空間を体験して頂けたと考えます。

・学生の交流

本企画には、生体システム論研究室の学生だけでなく、他の学部や他大学の学生にも参加して頂き、広島大学内だけでなく大学間での学生の新しい交流の活性化につながったと考えます。道の駅で開催されたイベントにおいて、主催のHSG以外の学生も協力して行えたことはイベントとして大きな意味があることだと考えます。

[課題]

何をいつまでに作成するか、何を優先的に行うかなどを考え、スケジュール管理を行うことが上手く出来ないことがあったので、計画性において課題があると考えます。

また、必要なものや購入したもののリストアップなど情報を共有するタスクもおろそかになることがあり、情報の共有についても頑張る必要があると感じました。

実施風景 (写真)



【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください
E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学部学生支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)